

ショートメッセージ

2022年9月11日(日)「獅子の洞窟の中で」

暗唱聖句:いつものとおり二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。(ダニエル6:11)

今週の聖書教育誌の週題は「獅子の洞窟の中で」です。聖書物語のなかではよく知られた箇所です。この時のダニエルの年齢はというと、クイズの問題になりそうですが、85歳くらいと言われていています。ダニエルはネブカドネツアル王が南ユダ王国を滅ぼした時(前605年)にバビロンに捕囚の民として連れてこられたのでした。この時、まだ若干16歳くらいの少年でした。そして彼はバビロンとペルシャの時代まで捕囚の全期間をバビロンで過ごしたのです。

1:4 体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力のある少年を何人か連れて来させ、カルデア人の言葉と文書を学ばせた。

この少年は知恵と才能とに恵まれ、厚い信仰心を持ち、バビロンの宮殿で70年にもわたり政務官として仕えてきたのでした。この時代、預言者エレミヤが南ユダの地で、預言者エゼキエルはダニエルと同様に第二回の捕囚(前597年)でバビロンに移され同じ時代を神の言葉を告げる者として活動しています。

ダニエルの信仰心は生まれ育った南ユダ王国で過ごした日々が彼のその後を決めたと言えるでしょう。その時代、南ユダ王国はヨシヤ王の治世でした。ヨシヤ王は神の前に正しい王として偶像礼拝を國中から一掃し、神殿修繕の際に見つかった「律法の書・申命記であったと言われていた」を基にいわゆる宗教改革(前622年)を行いました。そして、預言者サムエルの時代から久しく途絶え、忘れられていた「過ぎ越しの祭り」を復活して祝うというイスラエルの民として信仰の復興を若い日のダニエルたちは体験し影響を受けて揺るぎない信仰が育まれたのでしょう。

ダニエル自身は預言者として活動した訳ではなく、優秀な行政官として政務に秀でた人物でしたが、神からは夢を解く賜物をいただいた者として、時に歴代の王の夢を解き明かすことで絶対の信頼を得ていきました。

このダニエルの能力はバビロンを滅ぼしたペルシャの治世となっても重用されて、王国を治める百二十人の総督の上に立つ三人の大臣の一人に任命されたほどです。彼は多神教の世界のなかで生きていきますが唯一真の神の存在を忘れることは一日たりとも無かったのです。

しかし、神に従い、真理の道を歩んでも、この地上での人生では試練や迫害に遭うことがあります。病に悩まされたり、時として信仰のゆえに命の危険にさらされることもいつの時代にもあることです。

ペルシャのダレイオス王からの厚い信任をこころよく思わない大臣や総督たちがダニエルを陥れようとして王に禁令を布告するように仕向けたのでした。彼らは王にこう願い出しました。

6:8 王国の大臣、執政官、総督、地方長官、側近ら一同相談いたしまして、王様に次のような、勅令による禁止事項をお定めいただくということになりました。すなわち、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願い事をする者は、だれであれ獅子の洞窟に投げ込まれる、と。

ダレイオス王はその禁令に署名して発布することを許しました。ペルシャ王としての驕りがあったのかもしれませんが。ダレイオス王も驕りの故に、あのダニエルにとって、わずか三十日の事と軽く見たのかもしれませんが。

6:11 ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおり二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。

しかし、ダニエルはいつもと同じく神に祈り、捕らえられ、獅子の穴のなかに投げ込まれます。王は自分の軽率な行為に気づき、何とかしようとしたが、自分の出した禁令を今更、取り下げることは許されません。王は自分が信頼した最高の部下を失ってしまうのではないかと狼狽します。王はこうダニエルに語りかけます。

6:17 王は彼に言った。「お前がいつも拝んでいる神がお前を救ってくださるように。」

6:21 洞窟に近づくと、王は不安に満ちた声をあげて、ダニエルに呼びかけた。「ダニエル、ダニエル、生ける神の僕よ、お前がいつも拝んでいる神は、獅子からお前を救い出す力があつたか。」

自分の力ではダニエルを救えないダレイオス王は、ダニエルが祈る神こそがこの窮地から救い出す力があると望みを託しました。王という立場の者にさえ、このように言わせたダニエルの信仰の姿に私たちは励まされます。私たちもダニエルのような神への仕え方、信仰を証しする一日一日を生きていく者でありたいと願わされました。

果たして、ダニエルの神への厚い信頼と信仰は穴の中の空腹の獅子をも静めたのです。ダニエルの信仰により神が獅子の口を塞いだと言うべきでしょうか。この出来事は、神に信頼する者に対する試練というものは、どんなにか大きな恵みの機会であるかを教えられます。ダレイオス王の心にも神の働かれる姿を観て、福音の糧が与えられ唯一の真の神への信仰が育てられたのではないのでしょうか。

6:27~28 わたしは以下のとおりに定める。この王国全域において、すべての民はダニエルの神を恐れかしこまなければならない。この神は生ける神、世々にいまし その主権は滅びることなく、その支配は永遠。この神は救い主、助け主。天にも地にも、不思議な御業を行い ダニエルを獅子の力から救われた。

この驚くべき宣言に込められた神の偉大な業はダニエルを通してキュロス王にも及んでいくのです。

私には、この穴の中の獅子は神を知らない異教徒のように思えます。ダニエルはどんな困難な時にも神のみ心に聴き入り、栄光を神にささげました。迫害するかもしれない異教徒のなかにあっても、真の神への畏れと従順の姿勢を貫くことで自らの平安を神から与えられ、神の祝福が迫害する者にも及ぶという驚くべき喜びがあることを教えられます。この神の真理は、日本の異教社会のなかにおいてキリスト者として迫害を受けながらも唯一の真の神を証しする信仰生活を先人が歩まれたことにより福音の種が私たちの大切な「となり人」に、また「今は心が離れている人」にも宿すことに連綿と連なっていると私は信じています。

一コリント 15:58 わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。

● 分かち合い

・ダニエルはどんな時も神に礼拝することを忘れませんでした。コロナ禍で私たちは会堂での礼拝が制限されてきました。あなたの礼拝についての考え方に変化はありましたか。

・個人であれ、教会であれ世に仕えてゆく姿勢は大切だと主イエスは教えておられます。コロナ禍の今、教会が世から求められている事は何かを考えてみましょう。

(担当：H.G.)